

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成 20 年 12 月 4 日
調査実施の時間	開始16時00分 ~ 終了20時30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゆんぬ (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 _____ 腰 高 行 _____
	氏 名 _____ 藤田 泰洋 _____
事業所側対応者	職 名 _____ 管理者 _____
	氏 名 _____ 竹内 美津子 _____
ヒアリングを行った職員数 (2)人	

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4679600082号		
法人名	医療法人 沖繩徳洲会		
事業所名	グループホーム ゆんぬ		
所在地	〒891-7611 鹿児島県大島郡与論町茶花302番地5 (電話)0997-81-3919		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成20年12月29日

【情報提供票より】 (平成20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	7人、非常勤 1人、常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500円	その他の経費(月額)	100円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 94歳	最低	90歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	与論徳洲会病院 児玉歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆんぬ」とは地域の言葉”与論”のことで、与論島唯一のグループホームであり、地域の中で大切な役割を果たしているホームである。島の中央部に位置し、いつでも気軽に訪問できる便利な場所にある。事業主体である医療法人と医療連携体制を整え、利用者・家族等の安心につながっている。また、職員は入居者一人ひとりの考え・思いをくみとり、意向に添った支援に力を注ぎ、家族へは状況を細やかに伝えている。2008年10月1日から短期利用共同生活介護事業の指定を受け、地域の利用者の利便性が強化されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の見直しを職員で取り組み、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員に配布して、それぞれが記入し検討した。ガイドブックを参考にして、気づかされたり再確認したりで、自己評価により、職員が啓発されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	会議では、ホームの状況報告のほか、日常的な施設環境のアドバイスをもらったり、地域との交流について話し合っている。また、運営会議を利用して会議参加者とホーム職員との直接的なふれあいの場を設定したりしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	日常的な家族の訪問や運営推進会議で意見を出す機会がある。また、家族会を立ち上げており、ケアの在り方などについて、意見や不満を出すようにしている。意見があった場合は、ホームと法人とで対応し、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学校の総合的な学習を定期的に受け入れ、ボランティアや職場体験学習も積極的に受け入れている。また、地域の行事に出かけたり、ホームの行事に地域から多くの参加がある。入居者と家族と地域の人は顔見知りが多く、地域とは和やかに連携が取れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合っ、これまでの理念を見直して、利用者の自立支援と地域とのつながりを重視した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和し確認し合っている。理念は職員の中に定着し、入居者の人格を尊重する支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の総合的な学習を定期的に受け入れ、ボランティアや職場体験学習も積極的に受け入れている。また、地域の行事に出かけたり、ホームの行事に地域から多くの参加がある。入居者と家族と地域の人は顔見知りが多く、地域とは和やかに連携が取れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員に配布してそれぞれが記入し検討した。ガイドブックを参考にして、気づかされたり再確認したりして、自己評価により、職員が啓発されている。外部評価は運営推進会議に報告して、グループホームの理解につながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの状況報告のほか、日常的な施設環境のアドバイスをもらったり、地域との交流について話し合われている。また、運営会議を利用して会議参加者とホーム職員との直接的なふれあいの場を設定したりしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の地域包括支援センターのケアマネージャーと短期利用の担当者がよく連携している。管理者は町の担当者をよく訪問し、担当者もホームによく来ており、連携は密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の折に、暮らしぶりをみてもらい、また日ごろの状態や健康面・預かり金の出納も報告している。島外の家族には、電話で定期的に伝えている。職員の異動は、面会時に挨拶して知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議で意見があった場合は、検討して対応している。また、家族会でのケアの在り方などについての意見や不満は、ホームと法人とで対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の介護老人保健施設からの異動があったが、馴染みの関係が構築されている。今後は馴染みの関係を重視して、異動がない方針が採用されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の研修への参加する機会は少ないが、研修内容の伝達はされている。島内では、法人を中心に多くの勉強会が実施されており、月に2回は全員出席し研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内に他のグループホームがなく、島外のグループホームの職員との交流は今後の検討事項である。管理者が奄美地区のグループホーム連絡協議会に参加して、職員に指導することによりサービスの向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所ができるようになっている。利用前に入居者と職員が一緒にお茶飲みやレクレーションをしながら、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員に生活の知識や島の歴史を教えている。職員は年長者である利用者から学ぶ姿勢で、お互い支え合う関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の嗜好や入浴時間・日中の過ごし方など、利用者の希望に沿って支援している。意向や希望をさりげなく察知できるように見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来所に合わせて担当者会議を開催している。本人・家族・職員の意見を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は短期目標にそって、申し送りやミーティングで意見を述べたり、介護日誌に記録している。定期的にケアのチェックとモニタリングも行っている。状態の変化に応じた見直しも随時されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、医療面の支援と今年から短期利用共同生活介護事業を開始している。通院支援や自宅・理美容院などへの送迎支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診は職員が付き添い、受診結果は家族に報告している。適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	離島のため、家族が希望すれば重度化や終末期でも対応する方向性を決めている。状況に応じて家族や主治医と相談して進めることとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には「さん」付けを徹底し、排泄の支援などさりげなく行っている。プライバシーの確保については、全職員が常に具体的に確認合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝・食事の時間は、本人の都合に合わせている。また、入浴やレクリエーション・外出も利用者のペースに柔軟にあわせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、下ごしらえ、片付け、食器ふきなどに参加している。職員と共に楽しみながら会話をしたりしてゆっくりと食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活習慣や希望に応じて、入浴日や時間も自由である。夏は毎日入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、掃除や洗濯物たたみなどの役割を好みに応じてしている。おしゃべり・手芸・ランプゲームなどの楽しみごとや三味線を奏たり島唄を歌うなどの気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回は近くの港周辺などに外出したり、島巡りや島の地域行事にあわせて外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、見守りと安全面に配慮して、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、消火・避難訓練を実施している。台風時の備蓄についても確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについて、栄養士の助言を受けている。食事量や水分摂取について記録し、職員が情報を共有するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけの工夫をしている。日当たりや換気も良好である。家庭的ななかにも清潔感があり、皆がくつろいで落ち着ける生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家族の写真・置物・家具など、入居前に使っていた好みのものを持ち込み、居心地良く生活できるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。